



2025年、表千家同門会米国東部支部は設立15周年を迎えます。

日本が誇る伝統文化「茶の湯」の精神を、表千家茶道を通じて広く啓蒙するとともに、日米間の文化交流をさらに深め、また世界平和への祈りを共有するため、公益に資する公式記念行事をワシントンD.C.およびニューヨークにおいて挙げる運びとなりました。

本行事では、より多くの皆様に茶の湯の魅力と伝統文化の奥深さをご理解いただき、国際的な絆が一層強固になる一助となれればと願っております。

茶は約2,000年前に中国で発見され、日本に伝来して以来、単なる飲料の域を超え、精神性を取り入れた日本独自の文化へと発展してまいりました。その中で、千利休（1522～1591）は「侘び」を重んじ、独自の道具や茶室を考案するなど、茶道の大成に大きく貢献されました。その精神は、表千家の象徴である「不審庵」に受け継がれております。

表千家は、第十三代家元のもとで財団法人化され、1942年から日本各地で同門会が発足しました。1955年にはハワイで初の海外同門会が誕生し、1970年までに北・南カリフォルニアでも同門会が設立、さらに2010年には、この東部支部が国外で四番目の支部として発足いたしました。

アメリカでは、2006年にスターバックスでグリーンティーラテが発売されて以降、近年ニューヨークを中心に抹茶ブームが起り、抹茶が日常的に楽しめるようになりました。しかしながら、抹茶の背後にある長い歴史と「茶道」という深遠な文化は十分に知られているとは言い難い状況です。私どもは、表千家茶道を通じて、日本の総合芸術としての茶の湯を伝え、生活を豊かに整える文化であることを、より多くの方々にお伝えしてまいりたいと存じます。

このたび、表千家十五代家元・猶有齋宗匠御一行をはじめ、米国の一般市民の皆様、当支部の活動を支えてくださった皆様、そして日本および海外支部の同門会代表・会員の皆様をお迎えいたします。

東部支部がこうして晴れやかな記念行事を開催できるのも、ひとえにこれまで当支部の活動と発展にご尽力いただいた皆様のおかげであり、会員を代表して心より厚く御礼申し上げます。

皆様をお迎えできることを、心より楽しみにしております。

表千家同門会米国東部支部 支部長
上野隆司